

資料 1



和歌山大学 南紀熊野サテライト 事業総括書
(2023 年度)

2024 年 7 月

和歌山大学 南紀熊野サテライト

和歌山大学 南紀熊野サテライト事業総括書（2023年度）

目 次

1	はじめに	2
2	具体的活動成果・事業実施状況		
	【1】学校型事業	3
	【2】非学校型事業	12
	【3】組織基盤の強化	13

1. はじめに

◆サテライトで学んだ社会人学生が地域の中核となって活躍中！

和歌山大学南紀熊野サテライト（以下、「サテライト」）は、2005年4月に「地域型サテライト」として設置され、19年が経過した。サテライトで学んだ多くの社会人学生が、地域の中核となって活躍している。また、サテライト受講生が地域で講師として人材育成をする側になるなど、学びの好循環を生み出している。

高等教育では、地域ニーズを的確にとらえ、体系的な地域学の学習機会を提供している。

また、和歌山大学南紀熊野サテライト連携協議会企画運営会議では、サテライトが令和4年度から令和9年度までの6年間に目指すべき方向性と具体的な取り組み、成果指標、目標値を掲げた案「和歌山大学南紀熊野サテライトみらい戦略四期計画アクションプラン」（以下、「アクションプラン」）を策定した。

サテライトでは、このアクションプランに基づき、急速に変化する知識社会において、地域の知の拠点の1つとしての役割を担えるように教育、研究、社会貢献の活動を推進している。

本報告書において2023年度事業を総括する。

◆2023年度事業の特長・課題

【事業の特徴】

(1) 実践力のある人材育成、ニーズに合った多様な学習機会を提供

地方創生に資する講座、授業を実施。（地域づくりの理論と実践D）（学部開放授業）

観光や地域経営を学ぶ塾を開催。（南紀熊野観光塾）

野外フィールドを活用した教育機会の提供。（南紀熊野の自然、南紀熊野ジオパークの自然と風土）（学部開放授業）

(2) 高校との連携強化

大学生と高校生が共同で学び合う機会を支援。

「大学授業の公開制度」にて、高校生が地域で開講している大学講義を受講して進学に繋げている。

(3) 学生、教員の地域交流活動の支援、教育研究の支援、地域情報の提供

学生や教員の調査研究に必要な南紀地域情報を提供。南紀地域での活動を支援。

(4) 産学連携、共同研究、教育研究プロジェクトの支援

学内等の調査研究を推進。

【今後の課題】

(1) 教育研究活動による地域発展モデルの構築と、更なる連携推進で「知の循環」を目指す。

(2) 学内外の支援組織体制の構築に向けて情報の共有と活用を推進。

(3) サテライトを拠点として、地域で活動する学生、同窓会組織、小中高大等の交流推進。

(4) 学内外へ大学活動とサテライトの認知向上のための広報活動。

2. 具体的活動成果・事業実施状況

【1】学校型事業

アクションプラン【1】学校型事業では、「1-1 実践力のある人材育成、リカレント教育の促進」、「1-2 受講ニーズを反映した授業編成の改善」、「1-3 県内外の小中高大の連携強化、学生のフィールド教育支援」、「1-4 公開講座の充実、開講形態、開講場所の多様化促進」を目標に以下の事業を実施した。

1-1 「実践力のある人材育成、リカレント教育の促進」、1-2 受講ニーズを反映した授業編成の改善」

(i) 高等教育の実施

サテライトでは、本学が有する高等教育機能を活用して、地域課題の探求及び社会人の学びなおしやスキルアップなど、多様な学習ニーズに即した学部開放授業と大学院科目の開講を行ってきた。

《大学院科目の開講》

本年度は和歌山大学大学院経済学研究科の科目を前期2科目、後期2科目の合計4科目を開講した。授業のテーマとしては、社会人受講生にとって生活の知識となる民法や産業立地に関する授業。また、農業が主な産業基盤である南紀熊野に関連のある協同組合論、農工商連携・六次産業化といった授業を開講した。

(前期開講)

授業科目名	担当教員	受講者数		
		サテライト	大学院生	合計
民法	和歌山大学非常勤講師 吉田 雅章教授	3	7	10
経済立地論	和歌山大学経済学部 藤田 和史准教授	3	18	21
合計		6	25	31

(後期開講)

授業科目名	担当教員	受講者数		
		サテライト	大学院生	合計
協同組合論	和歌山大学経済学部 岸上 光克教授	4	8	12
農工商連携・六次産業化	和歌山大学経済学部 藤田 和史准教授	2	2	4
合計		6	10	16

《授業の概要と成果》

「民法」では「不動産登記と地面師」、「抵当権と根抵当権」といった身近で起こりうる可能性のある事例を取り上げ、実際に起こった事例の最高裁判決の判例分析や民法学会の動向を踏まえた授業展開を行った。また、テレビドラマ「特上 カバチ」を視聴することでより分かりやすく、より身近に民法を感じることのできる授業となった。

「経済立地論」では、人間の経済活動とその中心である集落・都市の立地について、産業構造別及び形態別に立地の規則性に関する理論を学ぶ授業を開講した。具体的にはテキストの輪読を通じて農業・工業・商業の各産業の立地論、そして都市・集落にかかる中心地理論についてその理論的系譜及び応用分析・実体論について学ぶ授業となった。

「協同組合論」では、近年は利益追求型の企業経営ではなく協同組合という形態に注目されているため、今回は農協を取り上げ、協同組合とは何か？協同組合の課題は何か？などを具体的事例から学び、協同組合について主体的に学ぶ授業を展開した。

「農工商連携・六次産業化」では、農業生産者と他産業が結びつくことで、高付加価値化を目指す六次産業化などの事例を分析することを通じて、地域農林水産業の存続のありようについて検討した。また、風土産業等の古典論を解説しながら、地域に適した農林水産業および関連産業のあり方についても考察した。



「民法」の授業風景



「経済立地論」の授業風景

《学部開放授業の開講》

本年度の学部開放授業は前期3科目、後期3科目、通年1科目の合計7科目開講した。南紀熊野地域の諸課題に対する地域ニーズの高い内容について、学内研究の成果の地域還元として授業に編成して開講。

（前期開講）

授業科目名	担当教員	受講者数		
		サテライト	学部生	合計
南紀熊野の自然	和歌山大学教育学部 此松 昌彦教授ほか	15	10	25
南紀熊野ジオパークの自然と風土	和歌山大学教育学部 此松 昌彦教授ほか	10	18	28
地域経営資源論	和歌山大学観光学部 出口 竜也教授ほか	7	16	23
合計		32	44	76

（後期開講）

授業科目名	担当教員	受講者数		
		サテライト	学部生	合計
地域観光戦略論 A	和歌山大学経済学部 藤田 和史准教授	4	2	6
郷土の食文化から考える食の危機	和歌山大学客員教授 鈴木 裕範	5	14	19

きのくに文学名作案内	和歌山大学名誉教授 天野 雅郎	10	29	39
合計		19	45	64

(通年開講)

授業科目名	担当教員	受講者数		
		サテライト	学部生	合計
地域づくりの理論と実践 D	和歌山大学観光学部 大浦 由美教授ほか	5	11	16

《授業の概要と成果》

「南紀熊野の自然」では、田辺市だけではなく、すさみ町、白浜町、串本町の各地のフィールドでの観察を中心とした授業展開をした。南紀熊野にあるこれらの自然を見ることにより、自然度の高さ、人間が関与した里山の自然と比較して保全すべき自然についての理解を促した。

「南紀熊野ジオパークの自然と風土」では、地形・地質をベースにした南紀熊野ジオパークについて学ぶことで、南紀熊野地域の地域資源の素晴らしさを理解した。また、橋杭岩や周辺の地質地形から学ぶことで、災害や自然環境の保全、観光産業などについても理解を深める授業となった。

「地域経営資源論」では、南紀熊野には、世界遺産をはじめ、南紀熊野ジオパーク、ラムサール条約湿地など観光資源が豊富にあるが、著しく人口が減少している問題もある。地域の特産物、地域の文化財、自然、風景、温泉、歴史上の出来事などを地域資源ととらえ、その経営のあり方について考えた。本授業を通じて、地域資源の発掘、地域資源を組み合わせることで商品化する方法や売りたい顧客に商品の情報を伝える方法を学ぶ授業となった。



「南紀熊野の自然」の授業風景

「地域観光戦略論 A」では、自らの目的意識に基づく観光、風物、名所を観るとともにその背後にある物語をも楽しむ観光まで、新たな観光として深化・多様化している。そして、現在の観光の大きな特徴は、個人の観光行動が広く発信され、新たな観光を誘発するという点にある。観光の新たな側面を学びつつ、その知見をどのように生かすのかという点に重きをおいて、観光戦略の計画・立案・発信まで含めた受講生の理解につながりやすい授業となった。

「郷土の食文化から考える食の危機」では、和歌山県を中心とした日本の食文化、豊かで多様な食文化が

存在する地域、私たちの暮らしを作っていることの幸福や重要性等これからの食の姿を考える授業となった。

「きのくに文学名作案内」では、「きのくに文学」というテーマを中心として、哲学や宗教学を含めた授業として開講した。和歌山の前身であるきのくにを舞台とする文学の歴史を振り返りながら、私たちの心の中にきのくに文学が脈打っていることを確認することができる授業となった。

「地域づくりの理論と実践 D」は、都市農村交流を通じて農業・農村の課題解決に取り組む「ホスピタリティ豊かな地域づくり人材」の育成を目標に、学生と社会人が共に集う多世代型の学びの場として令和元年から開講されてきた。今年度も幅広い分野の研究者および実践者を講師として招き、5つの視座からなる講義を実施した。最終回に開催されたミニシンポジウムでは、本講義の成果として、継続的に受講した学生から主体的に農の現場や地域づくりに関わろうとする者、それをキャリアとして選択した者を複数排出するなど、受講生の当事者意識の醸成に貢献し、農的関係人口の創出に繋がった点などが報告された。



「地域づくりの理論と実践 D」の授業風景

（ii）南紀熊野観光塾の開催

和歌山県「南紀熊野地域」における、観光産業従事者及び、地域活動者を対象として、観光カリスマの山田桂一郎氏を塾長に開催。持続可能な地域経営を考えて自主的に取り組む次世代の観光産業のリーダーとなる人材育成を行うための塾。

《令和5年度開催概要》 基礎講習

開催日：令和6年1月25日（木）26日（金） 参加者23名

場所：和歌山県立情報交流センターBig・U 研修室4

講演者：出口 竜也 氏（和歌山大学観光学部教授）
此松 昌彦 氏（和歌山大学教育学部教授）
山田 桂一郎 氏（和歌山大学南紀熊野サテライト客員教授）
山田 拓 氏（株式会社美ら地球 代表取締役）
小松 志大 氏（一般社団法人気仙沼地域戦略 事務局長）
永山 卓也 氏（株式会社ユニットティ 代表取締役）

テーマ：観光の基本を考える～基本を学び、観光を知る～

内容：山田桂一郎客員教授を塾長とし、ゲストスピーカーに3名を招聘し、南紀熊野観光塾を開催した。ゲストスピーカーから観光の基本を考えるための話題提供をいただき、続いてそれをするためにわれわれがなすべきことは何かについてのトークセッションを行った。

○参加者の傾向

参加者23名のうち12名が和歌山県内から、残り11名は県外からとなった。参加者の属性としては主に民間を含む観光業関係者、大学関係者などであった。

○開催成果

ゲストスピーカーから提供いただいた各地域の観光の話題に基づき、観光の基本をより発展させていくために、今後何をすべきかを参加者に考えてもらうことにより、参加者の観光に対する認識の向上を図ることができた。

《令和5年度開催概要》 塾生講習

開催日：令和6年2月28日（水）29日（木） 参加者19名

場所：和歌山県立情報交流センターBig・U 研修室4

講演者：出口 竜也 氏（和歌山大学観光学部教授）
此松 昌彦 氏（和歌山大学教育学部教授）
竹林 浩志 氏（和歌山大学観光学部教授）
山田 桂一郎 氏（和歌山大学南紀熊野サテライト客員教授）
藻谷 浩介 氏（株式会社日本総合研究所 主席研究員）
横川 史宏 氏（一般社団法人ツーリズムみはま 理事）
永山 卓也 氏（株式会社ユニットティ 代表取締役）

テーマ：観光の本質を見直す～原点回帰、本質とは何か？～

内容：山田桂一郎客員教授を塾長とし、ゲストスピーカーに3名を招聘し、南紀熊野観光塾を開催した。ゲストスピーカーから観光の本質を見直すための話題提供をいただき、続いて、それをするためにわれわれがなすべきことは何かについてのトークセッションを行った。

○参加者の傾向

参加者19名のうち7名が和歌山県内から、残り12名は県外からとなった。参加者の属性としては主に観光業関係者、大学関係者、公務員などであった。

○開催成果

南紀熊野地域に外国人をはじめ観光客が徐々に戻ってきている状況にある。それをふまえて、どうやって観光の本質を見直していくべきかを参加者に考えてもらうことにより、参加者の観光に対する認識の向上を図ることができた。



南紀熊野観光塾の風景

1-4 「公開講座の充実、開講形態、開講場所の多様化促進」

(i) オープンキャンパスセミナーの開催

サテライトと南紀熊野サテライト連携協議会が共催で、サテライトで開講する授業を受講するための判断材料にしてもらうことを目的に、授業を担当する教員による公開講座を例年開催している。同時にサテライトより参加者に受講生募集の説明会を開催している。

《令和5年度前期開催概要》

開 催 日：令和5年4月8日（土）13：30～15：30 参加者 20 名
場 所：和歌山県立情報交流センターBig・U 研修室2
講 演 者：古賀 庸憲 氏（和歌山大学教育学部 教授）
テ ー マ：南紀熊野の自然より「田辺湾内の海岸の生き物」
内 容：南紀熊野に残る豊かな自然は和歌山の貴重な財産であり、未来に引き継いで行く必要があります。セミナーでは、白浜の磯や田辺の干潟に見られる海岸動物とそれらを育む景観を写真で紹介することにより、南紀熊野の自然の大切さを講義に先立って解説した。

○参加者の傾向

参加者 20 人中 19 名からアンケートの回答をいただいた。西牟婁地域の居住者は 16 名、東牟婁地域の居住者は 2 名、その他地域（御坊市）は 1 名という内訳であった。これは開催場所が西牟婁地域であることから西牟婁地域の参加者が多い傾向となった。開催場所については学部開放授業の開講場所に依りて、西牟婁地域と東牟婁地域の両方での開催も次回以降検討していきたい。

○開催成果

昨年からの対面での授業が本格化したことから参加者確保と受講生確保が重要であったが、20 名の参加者のうち半数弱の 8 名がその後の受講につながった。これは、当サテライトでのフィールドワークをメインとした授業のオープンキャンパスセミナーであったため授業の魅力を伝えられたと考えられる。



令和5年度前期オープンキャンパスセミナーの風景

《令和5年度後期開催概要》

開 催 日：令和5年8月26日（土）13時30分～15時30分 参加15名
場 所：和歌山県立情報交流センターBig・U 研修室2
講 演 者：藤田 和史氏（和歌山大学経済学部 准教授）
テ ー マ：地域観光戦略論 A より「ご近所観光を考える」
内 容：現在の観光行動は、語源の意義を含みつつも、個人の趣味・嗜好に合わせて変化している。
また、個人の発信が新たな観光を誘発している。そういった観光の新たな側面を学びつつ、
その知見をどのように生かすのかという点に重きをおいた観光戦略について講演を行った。

○参加者の傾向

参加者15人中15名からアンケートの回答をいただいた。西牟婁地域の居住者は13名、その他地域は2名という内訳であった。これは開催場所が西牟婁地域であることから西牟婁地域の参加者が多い傾向となった。

また、年齢層については、15名中10名が50代以上であった。（50代4名、60代3名、70代2名、80代1名）本学全体の課題ではあるが、参加者の高齢化が顕著に表れた。また、50代以上の参加者割合が高いことから今後は40代未満の参加者増加への取り組みが課題である。

○開催成果

参加者15人中6人の受講となったが、地域活性化、マイクロツーリズム、ウラナカ等講演の中でキーワードとなった言葉には、講師だけではなく参加者も同様に関心を持っていたため熱心に受講していた。



令和5年度後期オープンキャンパスセミナーの風景

（ii）なんくまカフェの開催

サテライトでは、「夕方の仕事終わりに気軽に参加できる講座」を開催して欲しいとのニーズがあったことから、ドリンクを飲みながら、参加者と研究者が気軽に語りあえる場としてなんくまカフェを開催している。今年度は、サテライトがある田辺市と新宮市で講座を以下の内容で行った。

《令和5年度開催概要》第1回

開 催 日：令和5年7月8日（土）18：00～19：30 参加者16名
場 所：Cafe 丹鶴（新宮市）
講 演 者：出口 竜也 氏（和歌山大学観光学部教授）
 此松 昌彦 氏（和歌山大学教育学部教授）
 内山 裕紀子 氏（くまの体験企画）
テ ー マ：コミュニティビジネスをしたらエコツーリズムの沼にはまった！

内 容：三重県尾鷲市で熊野古道コミュニケーションビジネスを展開している内山氏が、なぜエコツーリズムに興味を持ち、推進や商品化をするようになったのかについて、コツや苦労話を交えて話題提供をいただいた後に、本学教員、参加者を交えて意見交換を行った。

○参加者の傾向

参加者16人中15名からアンケートの回答をいただいた。16名中15名が東牟婁郡及び三重県在住の方で1名が和歌山市在住の方であった。また、年齢層についても10代～80代の幅広い層の方が参加された。

○開催成果

募集期間が2週間と短い期間であったが、参加者が16名集まった。また、開催地近隣新聞社2社（紀南新聞、熊野新聞）からの取材もあった。申込方法についても例年からオンライン申込を導入し、申込者の8割がオンラインの申込となった。オンラインでの申込は引き続き継続していく。



第1回なんくまカフェの風景

《令和5年度開催概要》第2回

開 催 日：令和5年7月28日（金）15：00～16：30 参加者16名（うち高校生5名）

場 所：tanabe en+（タナベエンプラス）

講 演 者：出口 竜也 氏（和歌山大学観光学部教授）

永山 卓也 氏（株式会社ユニットティ）

テ ー マ：高校生のための商（あきな）い入門

内 容：今回は地域の高校生を主な対象に、健全かつ上手に商（あきな）いを行う術についてわかりやすくお話し、地域社会において働くこと、商うことの正しい意味を知り、お客様が喜ぶ商品を作り、それを正しく伝え、仲間と上手に協力することの重要性を学んだ。

○参加者の傾向

参加者6人と教員3名、合計9名分のアンケートを回収した。高校生の参加者が5名という結果になってしまったが、各高校の商業関係の担当教員へのアプローチが薄かったことが考えられる。また、テーマが「商い」ということから高校生にとっては少しハードルの高いものになったことも推測される。

○開催成果

参加者数自体は少ない結果となったが、今回の高校生を対象としたカフェは初の試みであったため、紀南地域の2校の生徒が参加したこと自体を成果としてとらえたい。また、報道5名（2社）、教員5名の参加があったことも「なんくまカフェ」の認知度を上げていくための成果としてとらえたい。



第2回なんくまカフェの風景

《令和5年度開催概要》第3回

開 催 日：令和5年11月25日（土）17：30～19：40 参加者10名
 場 所：tanabe en+（タナベエンプラス）
 講 演 者：吉村 旭輝 氏（和歌山大学紀州経済史文化史研究所 准教授）
 テ ー マ：田辺祭と紀南の祭
 内 容：「田辺祭」に焦点を当て、田辺祭の歴史や意味、紀南の祭などの解説をした。また、「田辺祭」に実際に参加した学生による感想や課題、見所なども報告してもらった。

○参加者の傾向

参加者10人中4名からアンケートの回答をいただいた。4名中2名が田辺市在住の方で2名が和歌山市在住の方であった。また、年齢層についても30代2名、70代1名、未回答1名の方が参加された。

○開催成果

今回のなんくまカフェは学生による「田辺祭報告会」との同時開催としたため、参加者からは田辺祭の歴史や概要を解説してもらえる上に、学生の意見も聞けるという構成は好評であった。



第3回なんくまカフェの風景

《令和5年度開催概要》第4回

開 催 日：令和5年12月15日（金）17：30～19：00 参加者15名
 場 所：tanabe en+（タナベエンプラス）
 講 演 者：木川 剛志 氏（和歌山大学観光学部教授）
 テ ー マ：地域の魅力の見つけ方、届け方
 内 容：地域においてどのようなところに焦点を当てて、魅力を見つけるのか？ また、見つけた魅力をどのように発信していくのか？映画監督を務めている中での経験を踏まえて観光発信の

ノウハウを解説した。

○参加者の傾向

参加者15人中12名からアンケートの回答をいただいた。12名中6名が田辺市在住の方で、上富田町、白浜町、みなべ町の方が各1名であった。また、年齢層についても30代1名、40代3名、50代1名、60代4名、70代2名、80代1名の幅広い層の方が参加された。

○開催成果

前回の反省を生かし、広報に注力した結果、参加者は定員数の参加となった。一方で参加者からはテーマに対して、若手層の参加率が低いという指摘をいただいた。



第4回なんくまカフェの風景

【2】非学校型事業（地域連携・地域貢献）

アクションプラン【2】非学校型事業では、「2-1 自治体との情報連携強化、地域連携情報収集の強化」、「2-2 産学官連携、地域での共同研究、教育、研究プロジェクト支援」、「2-3 学生（教員）の地域交流活動の支援、地域情報の提供」、「2-4 研究会、学会、現地報告会等の支援、活動成果の発信、授業化、社会実装」、を目標に以下の事業を実施した。

2-3 「学生（教員）の地域交流活動の支援、地域情報の提供」、2-4「研究会、学会、現地報告会等の支援、活動成果の発信、授業化、社会実装」

（i）田辺祭における調査及び報告会の開催

和歌山大学紀州経済史文化史研究所が、7月24日～25日に田辺市で開催された「田辺祭」の調査を行った。聞き取り調査の成果を OSM と LocalWiki を活用して発信し、その結果を地域に還元する地域情報の「見える化」の実現モデルを目標とした。さらに、後日、田辺市内において調査の成果報告会を開催した。

サテライトは、現地における調査支援や事務支援などを行った。また、「田辺市大学連携地域づくり事業」への申請支援も行い、採択にもつながった。

《調査概要》

調査日：令和5年7月24日～25日

場所：田辺市街地

参加機関：和歌山大学紀州経済史文化史研究所
和歌山大学南紀熊野サテライト
株式会社紀伊民報
和歌山大学観光学部学生
和歌山県立神島高等学校 写真部

《報告会概要》



田辺祭実地調査の風景

開催日：令和5年11月25日（土）
場所：tanabe en+（タナベエンプラス）
報告者：和歌山大学紀州経済史文化史研究所
和歌山大学観光学部学生
和歌山県立神島高等学校 写真部



活動報告会の風景

○活動成果

本調査における活動結果は、株式会社紀伊民報との協力により「LocalWiki」に掲載され、450年あまり続く「田辺祭」をデジタル媒体によって「見える化」することにつながった。

【3】組織基盤強化

アクションプラン【3】組織基盤強化では、「3-1 更なる「知の拠点」へ既存の組織や修了生と連携」、「3-2 他大学、機関と連携した活動推進」「3-3 同窓会組織や修了生と連携、「知の循環」を推進する活動支援」、「3-4 戦略的な広報、PR ツール強化、地域振興の取組みに参画」を目標に以下の事業を実施した。

3-1 「更なる「知の拠点」へ既存の組織や修了生と連携」

(i) きのくに活性化センターとの連携

きのくに活性化センターは、田辺、新宮両広域市町村圏組合（紀南地方全自治体）や田辺、新宮商工会議所、JA紀南、和歌山県、サテライトの参画による調査研究機関として、紀南地域の諸課題に関するリサーチや相談窓口の役割を担い、地域の価値をブラッシュアップする事業を提案するとともに、協同で実践し、地域と地域、地域と人を繋ぐ「場」の創出を行っている。

きのくに活性化センターには、サテライト代表と地域連携コーディネーターが委員として参画した。

(ii) 和歌山大学における連携体制の強化

紀伊半島価値共創基幹（通称：Kii-Plus）の定例会議に出席し、価値共創オフィスや各センター・サテライトとの間での定期的情報共有を行った。

また、Kii-Plus のプログラムオフィサーがサテライト調整会議メンバーに参加することで本学とサテライトの情報共有の連携強化を図った。

3-2 「他大学、機関と連携した活動推進」

(i) 各種関係組織との会議開催

《和歌山大学南紀熊野サテライト調整会議》

和歌山大学紀伊半島価値共創基幹（Kii-Plus）とサテライト間での情報共有やサテライトの地域連携、運営方針に関すること等について協議する定例会議を毎月開催した。

《和歌山大学南紀熊野サテライト連携協議会》

和歌山大学南紀熊野サテライト連携協議会は、紀南地域の活性化、文化の向上のため、サテライトが地域のニーズに応え充実した高等教育サービスを提供できるよう、紀南地域と和歌山大学との連携を強化するとともにサテライトの活用促進を目的としている。

7月5日には幹事会を、8月3日には総会を開催し、サテライトの年間活動報告や事業計画を承認した。



南紀熊野サテライト連携協議会の会議風景

3-3 「同窓会組織や修了生と連携、「知の循環」を推進する活動支援」

(i) 同窓会組織との連携

サテライト同窓会との連携を強化するために同窓会が主催し、サテライトの共催で地域ビジネスカレッジを開催した。講演者には、アントレプレナーシップ教育の導入となるように南紀熊野を中心に活躍されている若手実業家を招いた。

開催日：令和6年3月23日（土）

場 所：和歌山県立情報交流センターBig・U 研修室1

講演者：株式会社 TODAY 代表取締役 山田 かな子氏

株式会社日向屋代表取締役 岡本 和宜氏

テーマ：南紀熊野の未来を創る若手実業家たち

内 容：南紀熊野を中心に活躍されている若手実業家を招き、南紀熊野の抱える課題を解決する地域ビジネスについての活動紹介を行った。



地域ビジネスカレッジの風景

3-4 「戦略的な広報、PR ツール強化、地域振興の取組みに参画」

(i) インターネットによる情報発信

大学の入試情報や学生募集要項の他、オープンキャンパス、主催講座等の情報を紀伊半島価値共創基幹と連動したサテライトホームページの定期更新を行った。また、更なる情報発信のために、外部サイトのイベントバンクを利用することとした。

また、学部開放授業リーフレットにサテライトホームページの QR コードを掲載し、スムーズな案内に努めた。

(ii) FMTANABE との広報活動

地元ラジオ局の FMTANABE とサテライトが連携して、サテライトの広報に努めた。

具体的には、サテライト職員2名が FMTANABE の放送番組にゲスト出演して、サテライトの概要説明を行った。

また、FMTANABE 職員が「南紀熊野の自然」の授業に参加して、毎回授業終了後に教員と受講生にインタビューした内容をラジオ番組（南紀熊野のネイチャーアカデミー）で放送した。

さらに、放送内容を YouTube にアップロードして、サテライトの HP にリンクを張り情報発信した。

(iii) 各連携機関との広報活動

和歌山県立情報交流センター Big・U 入口配架コーナーにパンフレット等の配架を行った。南紀熊野サテライト連携協議会構成 11 市町村の広報誌への掲載や紀南地域の地方新聞会社への記事掲載などを行った。